

硬膜外無痛分娩について

① 目的

硬膜外無痛分娩とは、母体の膣下領域の区域麻酔を行うことによって、子宮収縮や産道の開大、会陰部の伸展に伴う疼痛を軽減する分娩です

② 方法

- i) ベッドの上で横になり、背中を丸くします。
- ii) 背中を消毒し、腰のあたりに局所麻酔をします。
- iii) そこから針を刺し、細いカテーテルを挿入します。
- iv) カテーテルから局所麻酔薬を注入し、痛みをとります。
- v) 局所麻酔薬の注入方法には、患者さまの痛みの程度に合わせて医療者が注入する「随時注入法」と、少量の局所麻酔薬が精密持続注入ポンプから持続的に注入され、痛みの程度が増してきたら患者さま自ら注入を行う「PCA (Patient controlled analgesia) 法」があります。方法の選択は陣痛の程度や子宮口の開き具合により、医師が判断します。



③ 開始する時期

- i) 陣痛の痛みが徐々に強くなって時点で開始します。
- ii) 陣痛が5分間隔で、子宮口が3～5cm開いた頃が開始の目安です。

④ 分娩中の過ごし方の違い

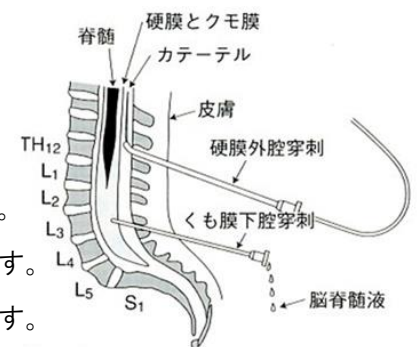
- i) 陣痛が発来し、入院時点から絶食と飲水制限となります。
- ii) 麻酔の程度により歩行制限、トイレをベッドの上で行う場合があります。

⑤ 硬膜外無痛分娩の良い点

- i) 他の痛みどめの方法より効果が確実で胎児への影響がありません。
- ii) 帝王切開が必要になった場合にも、同じ麻酔方法で行うことができます。
- iii) 分娩後の回復が早く、体力の温存ができます。

⑥ 硬膜外無痛分娩で起こりうる問題点

- i) 低血圧、感染、出血、神経障害（異常感覚）、頭痛（約1%）。
- ii) 陣痛が弱くなった場合、子宮収縮剤を使用することがあります。
- iii) 吸引・鉗子分娩になる可能性が若干高まるとも言われています。
- iv) 局所麻酔薬の血管内誤注入による痙攣や、くも膜下誤注入による広範囲な麻酔効果が起こる場合があります。



無痛分娩費用の目安

無痛分娩の費用は、局所麻酔剤の「随時注入法」と「持続注入法」で異なります。

「随時注入法」とは、患者さまの痛みの程度に合わせて、局所麻酔剤を医療者が随時注入する方法です。

「持続注入法」とは、少量の局所麻酔剤が持続的に注入され、痛みの程度が増してきたら、患者さまが自ら局所麻酔剤の注入を行うことができる方法です。PCA (Patient controlled analgesia)法とも言います。

方法の選択は、硬膜外麻酔開始時の陣痛の程度や、子宮口の開き具合により、医師が判断します。

なお、分娩所要時間により、薬剤料が追加される場合があります。

① 随時注入法 34,570 円

硬膜外麻酔手技および管理料	30,000 円
医療材料費（硬膜外カテーテル）	3,000 円
薬剤料	1,570 円

② 持続注入法（PCA 法） 42,590 円

硬膜外麻酔手技および管理料	30,000 円
精密持続注入手技量	1,600 円
医療材料費（硬膜外カテーテル・精密持続注入ポンプ）	7,800 円
薬剤料	3,190 円



院長 荏原 弘光